

# 売り上げのびーる

## 横浜市大「オリジナル」人気 生協が販売

横浜市立大学生協がオリジナルのラベルを張った「横浜市大ビール」を販売、学生食堂での教職員らのパーティーなどで人気を集めている。同大が先立ち、横浜国大生協が昨年春からオリジナルビールを販売。神奈川大生協も今年秋から、いずれも同じ市内の地ビール会社の製品をもとにし

たオリジナルビールを造る。大学ブランドのビールがちょっととしたブームとなっている。「当生協ではこれまでにもテレホンカードやCDなど市大ブランドの商品を作っている。横浜は日本初のビール発祥の地であり、オリジナルのビールを造った」と市大生協の田中義信専務理事。



横浜市大のオリジナルビール

数年前に、信州大学生協が「信大地ビール」を造って話題になったことが一つのきっかけだった。横浜市中区住吉町の横浜ビール株式会社の瓶入り地ビールに、独自のラベルを張り、大学のオリジナルビールとしてい

る。校章を上部に入れ、中央に同大学のシンボルの時計台、周囲に横浜ベイブリッジや赤レンガ倉庫など横浜の風景をあしらった。ホップが効いたピルスナー、フルーティな香りのヴァイツェン、黒ビールに似た味わいのアルトの三種と、発泡酒がある。ビール三種はいずれも三百三十ミリ瓶が四百八十円、発泡酒は三百九十円。

「市大ビール」を出すのは、学生食堂で開かれる学会の懇親会やOBのパーティーなど。同大の学生食堂は六年前に建て替えられてきれいな作りになっていることもあり、パーティー会場になることが多い。通常のメニューとしては出していない。ほかに、学生や教職員の帰省の土産物用に、六本入り詰め合わせも。こちらは、酒販免許の関係から横浜ビールが販売する。

今年三月から扱いはじめ、これまでに約千本が売れ、黒字化を達成している。

横浜国大生協では、やはり同様のオリジナルビールを作り、学生食堂のメニューにも載せている。「学生が飲む場合は節度ある飲み方を」と呼び掛ける。神奈川大生協では今秋の販売を目指し、ラベルのデザインを製作中だ。(石本 健)